

ヤエヤマヒルギの結実について

平井健一郎・柴田昌男・世羅徹哉

前報で報告したヤエヤマヒルギの開花後、結実・発根を確認した。

開花は多数確認したものの、結実したのはわずか2果であった。'98年6月7日に1果の発根を確認し、8月5日の時点で根長14.5cmであった(写真、7月29日撮影)。子房は焦げ茶色で数カ所にゆるやかな稜が見られやや多角錐状、その表面はざらざらしている。根は緑色で表面はつるつるしているが、所々に多数の小さな突起が観察された。9月24日に落果していたのを確認したが、果実を見失ったため詳細な記録はとれなかった。

残る1果は現在も着生しており、12月23日の

時点で子房最大直径1.8cm、子房長2.5cm、根長17.8cmである。



ヤエヤマヒルギの結実

また今年の花は現在のところ、結果している枝の3節上に2花咲いているのみである。

今回のヤエヤマヒルギの開花・結実において、展示する上で高所であることから入園者に

とって観察しにくいという問題を改めて実感し、今後植栽方法を検討する必要がある。

人工湿原の土壌入替について

永木 利夫

本園の人工湿原は、湿原に自生する植物を栽培展示することを目的として、系統進化園の園路に沿って設置されている。12個のコンクリートの水槽を、園路の傾斜に沿って段差を付けて直線状に配置し、各水槽の上層から下層へと水が常に移動するように配慮した構造となっている。(構造の詳細については栽培記録第4号参照) 設置から十数年が経過して、土壌の目詰ま

りと、雑草の繁茂によって水が停滞し、栽培している植物の生育に支障をきたすようになった。これを解消するため平成10年6月、人工湿原の土壌入替を行なった。

方法

地表から30cmの深さまで掘削を行い、その土壌は処分した。下から順にボラ土大粒厚さ10cm、ボラ土中粒厚さ10cm、ボラ土小粒、赤玉土小粒それぞれ等量に水苔を1割程度、マグアンプKを少量混ぜたものを厚さ10cm入れた。(図1参照) 各マスの水の移動は塩ビ管を加工し、サイホンにより行なった。

表 人工湿原に植栽した植物

番号	植物名
1	カキラン
2	サギソウ
3	サギソウ
4	サギソウ
5	サギソウ
6	サギソウ
7	セイヨウサワギキョウ
8	クリガミネヒオウギアヤメ
9	クサレダマ ヤナギトラノオ
10	アカバナ ナガボノシロワレモコウ
11	フジバカマ コシシギク
12	ミズギボウシ ユウスゲ

番号は図2の数字に対応する

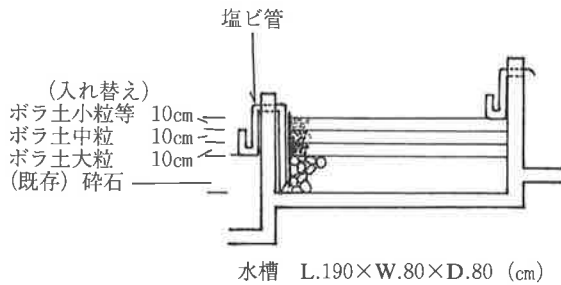


図1. 人工湿原水槽土壌入れ替え断面図

植栽

① 土壌入替前に掘り
② 取って保存していた
③ 植物や、苗圃で栽培
④ していた植物を植え
⑤ 付けた。植え付けた
⑥ 植物と場所は表1と
⑦ 図2のとおり。
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫

図2. 人工湿原配置図